

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協 ニュース

2016.1月号
通巻 第502号

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

本号の主な内容

新春特別号

活力ある日造協を目指して 会員拡大と活動の充実に向けて



熊野速玉大社（くまのはやたまたいしゃ）のナギ

国道42号線を和歌山県側から三重県側に渡る熊野大橋手前にある信号を左折すれば直ぐに世界遺産、熊野速玉大社が鎮座されています。この熊野速玉大社の参道に、平重盛（平清盛の嫡男）が、平治元年（1159年）に社殿完成を記念して植えたと伝えられるナギの木（昭和15年2月10日に国の天然記念物に指定）があります。基部の幹周りが約5.4m、目通り周が約4.45m、高さ約17.6mの巨木である（出典：和歌山世界遺産センター）。ナギは風に通じるとして、昔から海上安全、家内安全、和楽の信仰があり、熊野詣での証しにナギの小枝を手折った事が古書にも記されています。ナギの葉は、縦方向だけに葉脈があり、横には裂きにくいことから、縁結びの印とされていて、昔は、嫁いでいく娘の鏡の裏などにこの葉を忍ばせ、無事に添い遂げられるように祈ったと言われています。また、ナギの実で奉製した「なぎ人形」は、家内安全のお守りとしても有名で、社務所では、カップルになった「なぎ人形」を販売していますので速玉大社を訪ねられた折には、ぜひお土産になさってください。

(和歌山県支部)

藤原定家が訪れて詠んだ「千早振る熊野の宮のなぎの葉を変わらぬ千代のためしにぞ折る」という和歌は歌集『拾遺愚草』下巻に収められています。

さて、わが国の経済社会情勢は、安倍政権が「アベノミクス」で放つた3本の矢により、デフレ脱却へと局面が大きく転換しました。今年は、景気回復の芽が、経済の好循環の波に乗って全国隅々に花開くまでに好転してほしい、と願っております。

さらに新3本の矢により、未来に向か「希望・夢・安心」をキーワードに経済社会の力強さや民生活の豊かさが進展することに、大いなる期待を寄せております。

造園業界を取り巻く状況も、昨年の大いに大きな変化しつつあります。日造協が長年にわたって取組んできた要望・提言活動が実を結んでいます。

本年も皆様のご指導、ご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。皆様には、新たな希望を胸に輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

この一年が、造園建設業界にとって、造園力を発揮する機会となり、造園が広がり、持続的な発展を見通すことのできる明るい年になりますことを、心から祈念しております。

このような時こそ、時代の変化に対応した機動的な活動とともに、中長期的視点に立ち、将来の発展の礎となる事業量見通しなどの環境整備や次代を担う人材の育成・確保に力を注ぐことが何よりも大切な事柄と言えましょう。

年頭に当たつて
造園建設業の明るい未来のために

一般社団法人 日本造園建設業協会
会長 藤巻 司郎



謹賀新年

び、労務費単価の改善やダンピング対策の強化措置等が着実に講じられるようになりました。

また、公共事業費の維持・確保によって、ようやく景気回復が歩を進めつつあると感ずるよう

になった一方で、依然として將

に不透明で、依然として將

に不透明で、依然として將

に不透明で、依然として將

に不透明で、依然として將

に不透明で、依然として將

に不透明で、依然として將

日造協の機関紙は、昨年11月に創刊500号を迎えました。記念号にあたり部会ではさまざまな議論を交わし、500号ではこれまでの日造協を振り返り、これから日の造協については、新春座談会で語っていただくこととしました。また、座談会のメンバーは、日造協が喫緊の課題として取り組んでいる会員拡大や女性就業促進を踏まえ、その担当部会である「会員拡大プロジェクトチーム」、「女性就業促進検討特別部会」の方々にお集まりいただくのが時宜を得ており、両部会を抱える「アクションプログラム推進等特別委員会」の和田新也委員長に司会をお願いすることにしました。ご参加いただいた方々に御礼申し上げるとともに、この座談会からこれからの日造協を展望し、会員拡大と活動の充実に役立てていただければ幸いです。(広報活動部会長 成家岳)

座談会出席者

(司会) 和田 新也 (一社) 日本造園建設業協会副会長、アクションプログラム推進等特別委員会委員長
持田 正樹 氏 (株)もちだ園芸 代表取締役 (会員拡大プロジェクトチーム部会長)
土志田 淳 氏 横浜庭苑(株) 代表取締役 (会員拡大プロジェクトチーム)
下地 浩之 氏 (有)西原農園 代表取締役 (会員拡大プロジェクトチーム)
酒井 一江 氏 (株)淡窓庵 代表取締役 (女性就業促進検討特別部会会長)
井上 優美 氏 (株)山梅 公施設管理運営部課長 (女性就業促進検討特別部会)
松戸 幸子 氏 (株)新松戸造園 (女性就業促進検討特別部会)

オブザーバー: 藤巻 司郎 (一社) 日本造園建設業協会 会長
林 輝幸 (一社) 日本造園建設業協会 副会長、総務委員長
高梨 雅明 (一社) 日本造園建設業協会 常任顧問
成家 岳 (一社) 日本造園建設業協会 総務委員会広報活動部会長

和田 今回の座談会は、「活力ある日造協を目指して」がテーマで、その具体的な対応を行っている2つの部会が注目され、お集まりいただきました。そこで、まずは部会長さんから、自己紹介と現在の造園業、日造協についてどう思っているかをお聞きしたいと思います。



持田 正樹 氏

持田 会員拡大プロジェクトチーム(PJ)の部会長と理事、島根県支部長を務めている持田です。部会長の話があった際、地方の私が長を務めるのは、機動性なども含め心配でしたが、地方の会員がかかわっていく事例の一つにでもなればと、やらせていただくことにしました。

PJについては、昨年の8月号など、日造協ニュースで紹介されているとおり、本格的に活動を開始し、各総支部でそのための勉強会や入会促進のための説明会を開催するほか、地域リーダーズの方々にも協力していただいている。

会員拡大があるので、会員を増やすことも当然の目的ですが、こうした取り組みがきっかけで、会員の交流が活発になっていくことも、一つの成果だと思っています。

業界や日造協の現状については、若い方々が非常に前向きで元気があり、優秀な方が多く、日造協は人材の宝庫だと感じています。また、経験豊富なベテランの方々の力もあるので、老若男女を問わず、さまざまな力をどのような方向で、どう集約していくかが大事であり、焦らずコツコツと進めなければと思っています。

酒井 前期まで日造協の理事をし、今期は

顧問、6月から女性就業促進検討特別部会の部会長を拝命しています。部会は、活発に討議し、年度末に向けたまとめに入りたいと思っていますが、取り上げたテーマは数多く、働き方、ライフワークバランスをはじめ、女性を魅力的にみせる職場であつて欲しいので、女性の仕事着・ウエアもこだわり検討しています。

業界については、私が仕事を始めたのは都市公園等整備五ヶ年計画の初年度となる昭和47年の翌年で、以降、予算が増大しました。そしてある時期をピークに減少し、現在に至りますが、お金がたくさんあったからいいものがたくさんできたかというと一概にそうでもない。

私は知恵を出し合うことが、これから大切であり、若い方は基より、この業界は高齢の方々も非常に元気な方が多く、国の施策でもダイバーシティ(多様な人材の積極的活用)が取り上げられているように、それぞれが持てる力を積極的に発揮し、日造協や業界を盛り上げていけるといふと思っています。

井上 現在、公園の管理運営に携わっている井上です。高齢結婚、出産を経て、今年、会社に復帰したところですが、母親目線を活かせばとの会長、社長の配慮で、当社が10年来指定管理を行っているぐんまこどもの国で働いています。

今日は、女性の意見をはじめ、ダイバーシティという言葉も出ましたが、当社テーマは「グリーンダイバーシティ」を掲げており、こうした観点からお話をできたらと思っています。

土志田 横浜から来た土志田です。今日は私の想いをお話できればと思っています。よく「造園の魅力は何か?」が話題にされます。私は「人と社会に感動を与える産業」だと思っています。それは、農業から建設業、そしてサービス業と、一次産業から三次産業までの多様性が造園にあるからで、それだけ多くのものを造園は人と社会に提供できます。この魅力を一人でも多くの人に伝え、会員拡大につなげたいと思っています。

松戸 私は大学で造園を学び、そのときに主人に出会い、主人の実家である造園会社で、総務、経理といった裏方をしています。

特集 活力ある会員拡大と新春座談会

造園というものを若い人、知らない人にはどう伝えたらいいのかを思案しているところで、自分の子どもにすら、造園を説明するのが難しい状況です。

また、仕事と母親業をする中、実父が脳梗塞になり、実家にも通わなければならず、女性の仕事と家庭の両立について考えなければいいと思っています。

下地 地方の声ということで沖縄から参加

業界のプラットホーム、会員の横のつながりを

和田 日頃のお仕事や日造協への期待や課題をいただきましたが、日造協について思っていることがあれば、もう少しお聞かせいただけますか。

土志田 前述の「造園の魅力は何か?」とともに、「日造協に入るメリットは何か?」もよく聞かれます。

メリットはたくさんありますが、私は端的に「日造協には造園の頭脳と情報があるから」と答えています。

頭脳は何かというと、実際に法律や政策にかかわられてきた方が日造協の顧問等に歴代いらっしゃいますし、情報は法改正や必要な各種情報が的確に入り、業界の方向性も会報などで示され、全国の情報も集まっています。

適切な表現ではないかもしれません、会員の側からすれば、こうした情報を利用すればいいのです。協会という組織をどう捉えるか、魅力、存在意義、有効性は、感じ方の問題といえますが、実際に私は日造協からいただいた情報を地元の議論に役立てていますし、実を結ぶこともあります。

地元で議論し、提案しても、法律の壁もあり、専門家でないと分かりませんが、そのときに相談できるのが日造協であり、その存在は大きいと思っています。

和田 頭脳や情報を活かすという話がありましたが、松戸さんいかがですか。

松戸 日造協からの情報は、造園業に欠かせない役立ちますが、職員にどう伝えるか、それが会員としての一体感になるかというと、難しいのが現実です。

私は日造協と会員企業のかかわりだけでなく、会員同士の関係や会員の職員同士の交流をもう少し深められるといふと思っていました。そういうつながりができるともっと活発になるのではないかと。

酒井 現在も各委員会や事務局の方は相当頑張っておられるので、さらに有機的につながるすごい力になると思っています。例えば、地域リーダーズの活動などに次世代のリーダーがどんどん加わっていったらいいですね。

そのような会員のプラットホームになると場ができると、いろいろな意見が出てくるでしょうし、そこで意見を交わすことで、つながりも深まります。

近畿で女性10人が集まりましたが、活発な意見交換の場になりました。女性同士で、共通の話題があることや、年齢特有の課題など、テーマによっては話しやすく、活発な意見交換ができると思います。

させていただいた下地です。ですから、その立場からお話し、いただいたお話しは、地元に持ち帰り、情報を共有し、議論を深めていければと思います。

日造協沖縄県支部、沖縄県造協ともに会員は減少傾向にあり、日造協支部と県造協が別に語られることもありますが、私は共に語れるものだと思っています。そうしたことでも今日はお話をうながします。



酒井 一江 氏

また、造園の仕事は多様なので、現場、事務の方といった職能別のグループ化も考えられます。このように意見交換すると、自社の中では分からなかった自分の仕事の位置づけもより明確になると思います。

持田 地域の会員同士は仕事上の交流はあると思いますが、日造協や業界のことで意見を交わすことは、総支部での意見交換会くらいなので、そうした横のつながりがあるといいですね。

土志田 これはイメージの問題ですが、日造協は敷居が高いと思われているのではないかと。実際、そんなことはないのではあります。

下地 横のつながりをもっとということは、逆に、お互いを知らないということだと思います。地域では、どちらかというと県造協が主体だったりして、日造協の周知がいまひとつなのかもしれません。お互いを知るといいと思います。

県造協に青年部があり、日造協の会員と会員でない人がいますが、今年、地域リーダーズの研修が沖縄で行われ、総勢70名が参加し、横のつながり、仲間ができました。今後、これを継続していくことが大切ですが、同時にそれ以外の世代の人がどう横のつながりを持っていくかも課題で、会員にあまねく情報が伝わると業界が活性化するでしょうし、社会への広がりも期待できると思います。

沖縄の現状ですが、協会員は最盛期に比べ、県造協は86社から49社、沖縄県支部は56社から24社に減少し、造園事業も110億円から45億円と半減しています。

県造協に入っていれば日造協に入る必要がないという声も聞きますが、この変化を見てもわかるとおり、造園業という括りで

支部長

沖縄県
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県
茨城県
福島県
岩手県
青森県
北海道
沖縄県
九島
宮城県
秋田県
岩手県
青森県
北海道
繩州
鹿児島県
宮崎県
大分県
熊本県
長崎県
佐賀県
福岡県
愛媛県
高知県
香川県
徳島県
山口県
島根県
鳥取県
広島県
岡山県
和歌山県
奈良県
兵庫県
大阪府
京都府
滋賀県
福井県
三重県
愛知県
静岡県
岐阜県
石川県
富山県
新潟県
長野県
山梨県
長野県
群馬県
栃木県<br

きませんでした。これはもったいないことです。退会してからそのありがたさに気が付き、再入会されることもありますが、そちらないための具体的な取り組みメニューがあつてもいいのではないかでしょうか。会員減少を防ぐのではなく、増やすのですから、当然そういうことをしていかなければならぬと思います。

和田 つながること、伝えることが出てきていますが、井上さんいかがですか。

井上 入会についてではありませんが、先ほど話したプレゼンは、まさにどう伝えるかの技術で、共通しています。

私は、子どもたちに造園の素晴らしさを伝えたいと思っていますが、最近の子どもたちや若い人は「造園」という言葉自体が分かりません。でも、「環境」という言葉はわかつてもらえます。ですから、そうい

う分かりやすい言葉を選び、漠然としたイメージでも、相手の心に残るようになりますが大切なではないかと思っています。

社内の話ですが、いろいろな会合等に出席する機会が多い会長や社長は、戻ってきてから、こういう内容があつたと話をしてくれます。また、該当職員が会社を代表して参加すること多く、その都度機会をえて下さいます。

社外の交流、つながりという話も出ていますが、社内の交流もこれまで以上に大切だと思いますし、こういう会社もあるよというのも一つの情報で、多様な情報があれば、共感する人も中にはいるでしょうし、多くの人が関心を持つものであれば、深めしていくのも大事だと思うので、そうした情報の集まる場所があるといいと思います。

の違いは、仕方がないかもしれません。会費を払う自分はお客様で、協会は何かしてくれるのが当然との認識を持っている人もいると思います。

私も以前は、「支部」「本部」と口にしていましたが、最近「本部も大変なんだから」といたら、「どうしちゃったの」といわれました。というのは、協会活動に積極的にかかわるようになり、限られた事務局の方々とそれぞれの委員の方たちが相当な負担を抱えていることがわかりました。多忙な中、都合をつけて会議に参加し、深夜遅くまでメール交わしたりしています。会員はお客様ではなく、同じことに取り組む仲間で、誰かにやってもらうのではなく、皆で背負っていくものだと気づき、「支部」「本部」といっても始まらず、どうやったらできるかを考えるようになりました。

私自身、会員拡大の検討が協会を再考する機会になりました。ですから、どうしたら造園業や日造協が良くなるかを皆で考える機会、造園を考える仲間を増やす取り組みだと考えています。

酒井 支部と本部のやりあいはあってもいいと思います。ただ、お互いに文句をいうだけなら不毛ですが、文句ではなく提案をして、それについて議論を交わすのはいいと思います。

和田 今回の会員拡大も、持田さんから提案があり、それではというのが発端です。本部という何でもできる存在があるわけではないことを理解していただき、支部や各会員の力が本部の力にもなっていく、そういう組織力が協会なのだと思います。

持田 提案すれば本部がやってくれるだろうと思っていて、まさか自分がやることになるとは思っていませんでした。期待した成果が得られるか分かりませんが、現在頑張っているところです。

の仕事をし、自分の得意分野とは少し違っていても、次の仕事で活かせるかもしれませんし、まったく別の分野を学んだ人でも、これから造園に入ってこようと思っている人が活躍できる場がきっとあります。

実際、美術を学んだ人が、ディスプレイや花壇デザインで力を發揮したり、ヨガ等のスポーツインストラクターの経験を活かしたり、多様な造園の業態は、いろいろな人を受け入れ、活躍しています。

しかし、だからこそ会社の軸もきちんと示しておかないと、入社したけれど個人と会社の考えがあまりに違えば、不幸な結果になってしまいます。

造園業がやっている仕事、会社がやっている仕事、個人がやっている仕事のそれぞれのレベルで説明しないと不充分なのではないでしょうか。

持田 造園をどう伝えるかですが、広く一般、学生、職員など、対象によっても変わってくるでしょうね。

酒井 部会の話の中に、仕事の紹介をする機会があったそうですが、造園の仕事は紹介しないで欲しいと学校から要望があったそうです。いわゆる3Kといわれる建設業のイメージが悪いのか、土にまみれるような仕事のイメージが悪いのか定かではありませんが、残念なことです。造園がいかに素晴らしい仕事かを、もっと知っていただく必要があります。

そのための方法として、造園を解説する出前講座などをやっていくといいかもしれませんね。

土志田 「緑や環境は大切ですよね、それを守り育んでいるのは、造園なんですよ」など、そういう言い方の工夫などもいかなければならぬのだと思います。

下地 建設マスターの表彰に合わせて、子どもたちからお父さんお母さんの仕事についての作文が紹介されたり、振興基金が、建設業への想いを綴る高校生の作文コンクールを行っていると聞いていますが、日造協がそういう作文を募集し、表彰機会があつてもいいと思います。

井上 造園イコール植木屋さんと認識している人も多いと思います。造園という言葉自体を知らない人もいる中で、造園の仕事を分かってもらうのは本当に大変ですが、子どもたちが楽しんで、職業体験ができる「キッザニア」のように、造園の仕事を楽しく体験できる機会などがあると、いいと思います。

「本部」「支部」でなく、組織力を活かそう



下地 浩之 氏

和田 他にこんなことも考えられるという具体例はありますか。

下地 造園ならではの経営管理、現場管理ソフトがあるといいます。似たようなものがあつても、造園では使いにくいものが改善されれば、それだけで作業効率が上がり、担当者のストレスも減ります。現場で困っていることをリストにしてもらうと、そういうものがたくさん出てくるかもしれません。それこそ一社ではできませんが、日造協だからできることだと思います。

高梨 人材の育成を図るとひとと言でいっても、造園の場合、工種やポジションごとに必要な技術や資格が異なり、それに伴う安全教育が必要など、一人の職員が現場でマルチに動けるようになるには時間がかかるということをよく聞きます。

最近、高所作業車とチェーンソーの資格と一緒に、玉掛と移動式クレーンの講習と一緒にやって貰えないかという具体的な要望を初めていただきました。造園の仕事に沿って、必要な技術や資格を学べればそれに越したことはありません。人材育成の効率化一つをみても、まだまだいろいろなことができると思います。

土志田 個々の会社で対応できないから協会があるので、存在意義やメリットを語るのはある意味ではナンセンスです。しかし、そう思っていない方もいるので、会員の活性化や会員拡大に向けては、日造協のこんなところがいいところだと、分かりやすく示した案内が必要になっているかもしれません。

持田 協会の必要性を感じ創設された方々と、既存の協会に入会する方々の感覚

を一緒にやっていることがわかりました。多忙な中、都合をつけて会議に参加し、深夜遅くまでメール交わしたりしています。会員はお客様ではなく、同じことに取り組む仲間で、誰かにやってもらうのではなく、皆で背負っていくものだと気づき、「支部」「本部」といっても始まらず、どうやったらできるかを考えるようになりました。

私自身、会員拡大の検討が協会を再考する機会になりました。ですから、どうしたら造園業や日造協が良くなるかを皆で考える機会、造園を考える仲間を増やす取り組みだと考えています。

酒井 支部と本部のやりあいはあってもいいと思います。ただ、お互いに文句をいうだけなら不毛ですが、文句ではなく提案をして、それについて議論を交わすのはいいと思います。

和田 今回の会員拡大も、持田さんから提案があり、それではというのが発端です。本部という何でもできる存在があるわけではないことを理解していただき、支部や各会員の力が本部の力にもなっていく、そういう組織力が協会なのだと思います。

持田 提案すれば本部がやってくれるだろうと思っていて、まさか自分がやることになるとは思っていませんでした。期待した成果が得られるか分かりませんが、現在頑張っているところです。

「素晴らしい造園」の認知度を上げよう

酒井 部会の話が出ましたが、当部会では造園に認知度が低いと聞きます。

これは、造園の仕事が多様かつ、広範であることもありますが、造園の仕事を説明する際に、「ゴルフ場や公園をつくっている」ということだけでは、一般の人や中高生に造園という仕事が伝わらないのではないかでしょうか。

例えば、松戸さんだと、総務、経理になると思いますが、造園業というフレームと、その中で、総務や経理は何をするのか内

容や職種のポイントをきちんと示さないと掴みどころのない話になってしまいます。

公園をつくるには、調査し、計画を立てる人、工事をする人がいて、工事も色々ある。さらに、つくるだけではなく管理も大事など。それぞれの仕事や人にフォーカスを当てていくことも大切です。

また、造園を学んだ人だけでなく、農学でも違う分野の人や芸術、工学、生物を学んできた人もいます。それぞれの知識や個性を発揮して仕事をしています。今、造園

和田 造園・環境緑化産業振興会をベースにするのもいいかもしれません。日造協の会員だからそういうことができるというメリットにもなると思います。

そのほか、何か日造協で取り組めるアイデアなどはありますか。

持田 日造協の総会前後に地域リーダーズが勉強会などを企画し、メンバーが総会に参加したことがあります。その後、総会時期に行く行かない?と連絡を取り合い参加するようになったメンバーもいるので、そういう企画もいいと思います。

酒井 総会に合わせ、経営者だけではなく若い方が好みそうな講演などを企画したりするのも面白そうですね。

持田 講演会の企画だけでなく、前後の複数企画でもいいかもしれません。

また、現在、会員拡大と女性の部会が別々に動いています。こうした会議も合同でやったり、部会に限らず、趣味別や若手の男女が参加した交流などもあってもいいと思っています。

酒井 そういう機会こそ大事で、どんどんやるべきです。

和田 若手男女が参加した婚活にまで話が広がってきましたが、活気にあふれた造園業界になることはいいですね。

毎年恒例の造園界の新年会「造園人の集



和田 新也 氏

い」も昨年から女性が半額になりました。若い人、1社2人目からの割引などがあつてもいいのかもしれません。すでにありますこうした機会を活かし、もっと多くの人が交流するといいのではないかと思います。

今日は限られた時間の中、日造協の存在意義から、つながりや交流など、会員拡大や活性化に向けた数多くのヒントをいただきました。今後、机上の議論ではなく、これらを実現させるべく、「本部」「支部」ではなく、会員一丸となった取り組みが大切だと思います。本日は貴重なお話しをありがとうございました。

ともに学ぶ機会、交流の機会を増やそう

松戸 楽しい職業体験はいいですね。一方で、大人も造園に関する知識を得たり、業界の人たちがともに学ぶ機会もあるといいます。当社の場合、若い方が入ってきても、ベテランの方は自分の仕事が忙しく、若手を育てるところまでなかなかいきません。そのため、職業訓練校で造園を学んだ人の採用も多いです。大きな会社だとそうではないかもしれません。日造協が拠り所となり、技術を学ぶ機会があるとありがたいと思います。

和田 東京では以前、業界の訓練校がありました。参加する人が少なくなり、休校しています。しかし、要望があれば、再開を検討してもいいかもしれません。

酒井 学びの機会を求める声は多いです。教えるベテランの問題だけでなく、以前は学びの場となるいろいろな仕事や十分な仕事量がありました。それがなくなった現在、その対策は不可欠です。

和田 予算の問題もありますね。少し余裕があるときは、半端人足を付けられますが、ぎりぎりの予算だとそういうこともできません。若手に一人で働いてもらわないと会社が回らない現状も打破していかなければなりませんね。

下地 なかなか若い人に残ってもらうのは難しく、当社も結果的に転職者や訓練校で造園を身に着けた人になっています。人材確保が難しくなる中、協会によるスキルアップがあるといいます。補助金などを得られる仕組みを日造協で考え、それをベースに地域の形に合わせて取り組んでいくよなことができれば、個々の会社の負担が減ると思います。

持田 造園ではありませんが、商工会議所で、電話応対などの新人研修を行っています。異業種ですが、同世代の交流ができるので、参加企業の離職率が減ったとの話もあり、日造協でも県支部単位でそうしたことができると思います。

酒井 部会でも造園のオリエンテーションを新入社員にして欲しいという意見がありました。造園を上手く説明できない会社もあるでしょうから、その解決にもなるでしょうし、格好いいスタッフ養成になれば、造園の魅力になると思います。

井上 地元の異業種でそういうことはあります。日造協でできれば、一般的なことだけでなく、造園ならではのことでもできるし、業界に仲間がいることがいい刺激や連帯感にもなると思います。